

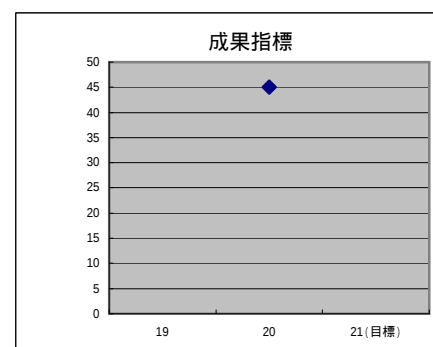
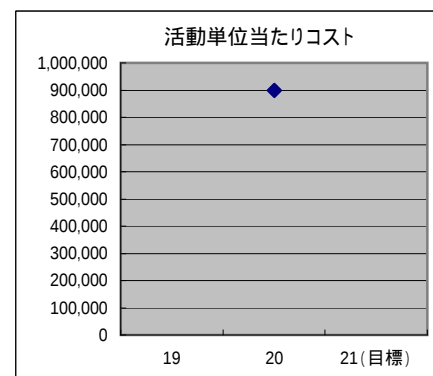
平成 21 年度 事務事業評価シート(平成 20 年度実施事業)

整理番号

教生社04

事務事業名		全日本少年少女合唱祭全国大会「羽曳野大会」実行委員会助成事業		予算科目	会計	1	一般会計	
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	3	次代を担う子どもを育むまち		款	10	教育費	
	施策(節)	3	青少年の健全育成		項	5	社会教育費	
	施策の方向	(3)	社会参加・交流機会の充実		目	2	青少年育成費	
	関連する計画等				事業	51	青少年育成	
				作成部署	教育委員会事務局生涯学習室社会教育課			
				連絡先	072 - 958 - 1111 内線 4451			
事業の目的	対象(誰を・何を)							
	青少年							
	意図(どういう状態にしたいのか)							
事業の内容	音楽を通じて、全国に仲間を広げるとともに、豊かな表現力を養い、情操を深める。							
	全日本少年少女合唱連盟主催の『第28回全日本少年少女合唱祭全国大会 羽曳野大会』を共催し、会場使用料を助成したり、必要な事務的支援を行う。							
根拠法令等		社会教育法						
事業開始時期		平成 20 年開始					終了年度	平成 20 年度
事業開始時からの状況変化								
市民や議会の要望								
実施手法		☐ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☒ 補助金・助成金 ☐ その他()						
委託先		☐ 外郭団体委託 名称 ☐ 民間委託			委託内容			

区 分		19年度 (実績)	20年度 (実績)	21年度 (見込み)
事業費【1】 (千円)			900	
人件費【2】 (千円)		0	900	0
職員数	正規職員	0.00 人	0.12 人	0.00 人
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	臨時職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費(【1】+【2】)【A】 (千円)		0	1,800	0
財源内訳	国費 (千円)			
	府費 (千円)			
	市債 (千円)			
	その他(手数料・使用料等) (千円)			
	一般財源 (千円)	0	1,800	0
活動指標(事業の活動実績)【B】 単位		19年度	20年度	21年度(目標)
大会開催日数 日			2	
活動単位当たりコスト(【A】/【B】) 円			900,000 円	
市民1人当たりコスト(【A】/人口) 円		0 円	15 円	0 円



成果指標 (事業目的の達成度を測る指標)	指標名	単位	指標設定の考え方	平成19年度	平成20年度	平成21年度
	参加合唱団数 (式)	団	合唱祭に参加している合唱団数	目標	45	達成率(%)
				実績	45	100.0%
	式)			目標		達成率(%)
				実績		

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	全国各地から合唱団が参集するため、市やLICホールMのPR効果は大きい。参加各団からの負担金だけでは、経費が賄えきれない。

視点	分析のためのチェック点			分析・評価の説明		
	はい	いいえ	該当なし			
妥当性	市民ニーズが高い	☐	☐	☒	毎年、開催地の地元市町村が、一定の助成、事務支援を行っており、突出する水準ではない。特に、今回は本市の市制50周年記念事業の一つとして開催するものであり、妥当性は高い。合唱団の子供たちにとっては、合唱技術の向上に資することはもちろん、同様に開催されたオラトリオ ヤマトタケルとともに、市民の音楽文化への関心を高めるものであり、本市の文化レベルを内外に発信する機会となった。	
	市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☐	☐	☒		
	社会情勢の変化に対応している	☐	☐	☒		
	他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☒	☐	☐		
	国・府の事業と重複していない	☒	☐	☐		
	事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☐	☐	☒		
	緊急性が認められる	☐	☒	☐		
効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	☒	☐	☐	事業のほとんどは、本市の合唱団のボランティアスタッフによって企画・運営され、人間的な関与は、必要最小限のものである。補助金の使途も、ホールの使用料に限定しており、算出根拠が明確であり、簡略化や、民間活力の活用についての検討の余地はない。	
	受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☒		
	人員を削減する余地がない	☒	☐	☐		
	事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐		
	簡略化できる方法や手段がない	☒	☐	☐		
	市の他事業と重複していない	☒	☐	☐		
	民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない	☒	☐	☐		
有効性	上位の施策(目的)が明確である	☒	☐	☐	例年の、音楽を通しての仲間作りや、豊かな表現力を養えることに加え、本市の合唱団の子供たちにはホストとしての役割も与えられ、貴重な経験となる。また市の関与でより一層盛り上げられ、市やLIC、ホールMのPR効果も大きい。	
	上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐		
	成果を向上させる余地がない	☐	☒	☐		
	市民の視点にたってサービスが提供されている	☒	☐	☐		
協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☒	☐	☐	事業のほとんどは、本市の合唱団のスタッフによって企画・運営されており、協働性は図られている。	
	事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☒	☐	☐		
	事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☒	☐	☐		
	事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☒	☐	☐		
達成度	成果指標の目標値は適正である	☒	☐	☐	前年度(福井県越前町大会)を上回る参加団体数であり、多数の一般市民の来場もあり、盛況であった。	
	成果指標の実績値は目標値以上である	☒	☐	☐		
	成果指標は前年度より向上している	☐	☐	☒		

担当 部局 評価	総合評価									
	☐ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☒ 完了									
	評価の理由									
	大会は、大きなトラブルもなく、盛況のうちに閉幕しており、合唱団の子供たちには、大きな満足感と、自信が備わったと考える。									
	今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など)									
	引き続き、合唱団をはじめ、子供たちの文化活動を支援していく。									